

キリスト教〈キリスト教〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キリスト教と文化	①/②		11117	Ⅲ	春／秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
尾崎 秀夫	選択	2				

授業の到達目標

とりわけ日本では宗教を非科学的なもの、科学と対立するものとの考えが根強い。キリスト教にかんしても、教会は科学の発達に反対の立場をとってきたと考えられている。本講義では、キリスト教と科学の関係について再検討する。この授業ではE（倫理）に重点を置く。

授業の概要

まず、聖書と科学の関係を考察する。聖書、たとえば旧約聖書の冒頭部分などは現代の科学で否定されているが、キリスト教はそれをどのように考えてきたのであろうか。次に地動説の出現に対してキリスト教がどのように対応したかを考察する。一般に、キリスト教は新しい考えに否定的で、それを弾圧したとされるが、コペルニクスやガリレオなどに対する教会の対応を検討する。

授業計画

- 1 導入
- 2 聖書と歴史
- 3 出エジプトと歴史研究(1)
- 4 出エジプトと歴史研究(1)
- 5 古代における宇宙観
- 6 古代における天動説と地動説
- 7 中世における天動説
- 8 コペルニクス(1)
- 9 コペルニクス(2)
- 10 ジョルダナーノ・ブルーノの地動説
- 11 ガリレオ・ガリレイ(1)
- 12 ガリレオガリレイ(2)
- 13 科学の発達とキリスト教
- 14 聖骸布
- 15 まとめ

授業の方法

講義を中心に、意見を求めたり、話し合いを取り入れたりする。

準備学修

地動説について復習しておくこと。準備学修には、参考文献を読むことなどで60時間以上を必要とする。

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

5回を超える欠席者には受験資格を認めない。

テキスト

とくに定めない。

留意事項

講義中の私語は禁止する。授業の途中での退出も原則として禁じる。途中退出は遅刻、15分を超える場合は欠席とみなす。

基礎〈基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
基礎演習 I	ET①/ET②/PC①/PC②/PC③/PC④		11201	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正/佐伯 瑠璃子/中園 佐恵子/渋谷 美智/山本 直子/渡邊 恵梨佳	必修	1				

授業の到達目標

この授業では、大学入学以前に学んだことを復習するとともに、大学に必要なスキル等について学ぶ。この授業では、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）、I（知性）を養う。

授業の概要

前半では、高校以前に学んだことを復習する。基礎学力は大学での学修でも、あるいは卒業後の生活でも必要である。すでに理解していることは確認し、忘れていたことはしっかりと思い出して欲しい。後半では、大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ。大学の授業で必要なこと、そして卒業後社会人として役立つことなどを身に付けていく。また基礎演習後半のクラスが、1年次のクラスとなるので、人間関係を築いて欲しい。

授業計画

- 1 (1)オリエンテーション(大学生としての姿勢)
- (2)言語1
- 2 オリエンテーション(図書館の利用方法について)
- (1)言語2
- (2)オリエンテーション(本学の学生としての姿勢)
- (1)言語3
- (2)キャンパスライフ(クラスでの自己紹介)
- (1)言語4
- (2)キャンパスライフ(相談)
- (1)社会1
- (2)キャンパスライフ(課外活動について)
- (1)社会2
- (2)キャンパスライフ(課外活動について)
- (1)社会3
- (2)キャンパスライフ(課外活動)
- (1)社会4
- (2)スタディスキル(受講)
- (1)数学1
- (2)スタディスキル(理解と表現1)
- (1)数学2
- (2)スタディスキル(理解と表現2)
- (1)数学3

- (2)キャンパスライフ(今後の学修について)
- (1)数学4
- (2)キャンパスライフ(学生相談)
- (1)確認試験1
- (2)スタディスキル(理解と表現3)
- (1)確認試験2
- (2)スタディスキル確認演習

授業の方法

演習形式

準備学修

webで参照すること。

課題・評価方法、その他

リメディアル 50%（平常点70% 定期試験30%）
後半学習50%（平常点70% eラーニング30%）

欠席について

3分の1以上欠席した者には受験資格を認めない。

テキスト

一般常識リメディアルテキスト（育伸社）
3訂 大学 学びのことははじめ～初年次セミナーワークブック（ナカニシヤ出版）

留意事項

リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上をとらなければ不合格とする。欠席1回につき合格点は1点上がる。eラーニングを課題とし、実力診断テスト10クリアすることとする。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
基礎演習Ⅱ	ET①/ET②/PC①/PC②/PC③/PC④		11205	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正／佐伯 瑠璃子／中国 佐恵子／渋谷 美智／山本 直子／渡邊 恵梨佳	必修	1				

授業の到達目標

この授業では、大学入学以前に学んだことを復習するとともに、大学に必要なスキル等について学ぶ。この授業では、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）、I（知性）を養う。

授業の概要

前半では、高校以前に学んだことを復習する。基礎学力は大学での学修でも、あるいは卒業後の生活でも必要である。すでに理解していることは確認し、忘れていたことはしっかりと思い出して欲しい。後半では、大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ。大学の授業で必要なこと、資格免許を取得するための実習について、そして卒業後社会人として役立つことなどを身に付けていく。また基礎演習後半のクラスが、1年次のクラスとなるので、しっかりと人間関係を築いて欲しい。

授業計画

- 1 (1)言語1
(2)オリエンテーション
- 2 (1)言語2
(2)キャンパスライフ(課外活動についてのディスカッション)
- 3 (1)言語3
(2)キャンパスライフ(課外活動についてのディスカッション)
- 4 (1)言語4
(2)キャンパスライフ(課外活動についてのディスカッション)
- 5 (1)社会1
(2)スタディスキル(教学カルテ入力について)
- 6 (1)社会2
(2)キャリアデザイン(社会意識1)
- 7 (1)社会3
(2)キャリアデザイン(社会意識2)
- 8 (1)社会4
(2)キャリアデザイン(社会意識3)
- 9 (1)数学1
(2)キャリアデザイン(社会意識4)
- 10 (1)数学2
(2)スタディスキル(リサーチ1)
- 11 (1)数学3
(2)スタディスキル(リサーチ2)

- 12 (1)数学4
(2)スタディスキル(リサーチ3)
- 13 (1)確認試験1
(2)社会人への一歩(今後の学修について)
- 14 (1)確認試験2
(2)スタディスキル(リサーチ4)
- 15 (1)確認試験3
(2)アカデミックスキル確認演習

授業の方法

演習形式

準備学修

テキストでしっかり、予習・復習すること。eラーニングを活用すること。準備学習には60時間以上かけること。

課題・評価方法、その他

リメディアル50％（平常点70％ 定期試験30％）
後半学修50％（平常点60％ eラーニング30％ 教学カルテ10％）

欠席について

3分の1以上欠席した者には受験資格を認めない。

テキスト

一般常識リメディアルテキスト（育伸社）
3訂 大学 学びのことはじめ～初年次セミナーワークブック（ナカニシヤ出版）

留意事項

リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上を取らなければ不合格とする。欠席1回につき、合格点を1点上げる。eラーニングを課題とし、実力診断テスト20クリアをすること。教学カルテも評価対象とする。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
海星学Ⅰ	ET①/ET②/PC①/PC②/PC③		11206	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐伯 瑠璃子／吉野 美智子／渋谷 美智／南 夏世／山本 直子	必修	1				

授業の到達目標

神戸海星女子学院大学の建学の精神や歴史について理解し、本学の学生としての自覚を深める。そのために人格的素養としてのKAISEIパーソナリティの項目について学び、並行して行われるキャリアプログラムと合わせ、内面的に自らを磨き、自身のキャリアデザインを描くとともに、自らの考えを構築していく。

授業の概要

KAISEIパーソナリティ「K・A・I・S・E・I」の6つの言葉をグループでの討論や研究を通して身につける。具体的にはコミュニケーションを養いながら、他者と協力する力、発信する力をつける。それと並行して行われるキャリア教育のプログラムでは、社会で働くことや職種・業界などについて学び、自身の将来に意識を向けていく。
また海星学ⅠⅡを通して、提示されたボランティア活動に参加し、自身の経験や社会性などを育む。授業は内容に合わせて、学年全体、学科別、またはクラス別に行う。

授業計画

- 1 ポートフォリオ(学生カルテ)
- 2 海星学とは
- 3 キャリアプログラム1「社会を知る・年金制度」
- 4 キャリアプログラム2「社会で働くとは」
- 5 キャリアプログラム3「職種・業界を学ぶ」
- 6 キャリアプログラム4「キャリアを考える」
- 7 進路を踏まえた今後の学びについて
- 8 海星の歴史と建学の精神
- 9 KAISEIパーソナリティについて
- 10 KAISEIパーソナリティについて
- 11 KAISEIパーソナリティについて
- 12 KAISEIパーソナリティについて
- 13 KAISEIパーソナリティについて
- 14 海星学の理解と自分の振り返り
- 15 ポートフォリオ(学生カルテ)

授業の方法

講義または個人作業・協同作業、グループディスカッション、プレ

ゼンテーションなど授業によってさまざまな形態で行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①各教員から課題が与えられる。フィードバックの方法は教員によって異なる。
- ②平常点40％、定期試験30％ eラーニング30％

欠席について

出席を重視する。欠席が5回を超えると単位は修得できない。

テキスト

プリントを使用

留意事項

ステラワーク（スタンダード）の実力診断テストを、同じ科目に偏ることなく100点10クリアすること。
教学カルテを入力しておくこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

日本語〈日本語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本語表現法	PC		11401	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
山本 直子	必修	2				

授業の到達目標

敬語をつかい、文章を書けるようにする。また、敬語をつかい、自己表現ができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）A（自律）を養う。

授業の概要

言葉を公に使用するということは、社会的責任を負うということでもある。授業では、社会人として必要な日本語表現の常識を学ぶ。注意深く、日本語に接する訓練をする。

授業計画

- 1 聞く力を養う。
質問力・雑談力を高める。
- 2 句読点、漢字の使い分け
- 3 見やすい表記について
- 4 「敬語」(1) 敬語の種類
- 5 「敬語」(2) 目上の方への手紙文
- 6 誤解されやすい文、分かりやすい語順
- 7 接続表現の使い方
- 8 効果的な意見～新聞の投稿から～
- 9 原稿用紙の用法
- 10 事実と意見について
- 11 データの解釈
- 12 レポートの構成
- 13 参考文献、引用の仕方
- 14 レポートを書いてみよう
- 15 エントリーシート、面接の言葉遣い
- 16 まとめとテスト

授業の方法

演習中心の授業である。聞くこと話すこと書くことを通して、社会と繋がっていく準備をする。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

- ① 毎回トレーニングシートの提出を求める
- ② 平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内の規定に準ずる

テキスト

安部朋世、福岡健伸、橋本修編『大学生のための日本語表現トレーニング』（三省堂）

参考図書

必要に応じて授業中に紹介する。

留意事項

演習が中心の授業となる。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

日本語〈日本語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本語文章構成法			11405	II	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	選択	2				

授業の到達目標

他人の意見を理解し、それを要約する力をつける。また、客観的資料をもとに、自分の意見を述べる力をつける。このクラスではKAISEIパーソナリティのE（倫理）とI（知性）とを養う。

授業の概要

簡潔で的確な日本語表現の習得を目指す。表現力向上のために必要な基礎的知識を、演習のなかで体得していく。与えられた課題に対して、自分で文章を作り、それを推敲していく演習形式の授業である。読み手を意識した文章を書く練習をするため、書き上げた文章は発表する。

授業計画

- 1 <評論文>(1) 感想文と評論文とはどう違うのか。
- 2 <評論文>(2) アウトラインのたてかたを学ぶ。
- 3 <評論文>(3) 推敲の仕方を学ぶ。
- 4 <評論文>(4) 書評を書く。図書・雑誌の探し方を学ぶ。
- 5 <評論文>(5) 引用の規則を学ぶ。
- 6 <新聞投稿> 検索能力を養う。
- 7 <意見文> 他説・自説・証明といった三段構成の方法を学ぶ。
- 8 <意見文・説得文> 反論の仕方を学ぶ。予想される反論をあげ、それに反論する。
- 9 <意見文・説得文> 結論・本論・結論の三段構成の方法を学ぶ。
- 10 <小説> 語り手の位置を学ぶ。
- 11 <小説> テーマにそった短編小説を書く。
- 12 <エントリーシート> キャッチコピーを学ぶ。接近法・強調法・暗示法などを学ぶ。
- 13 <エントリーシート> ネーミングコピーの作り方を学ぶ。
- 14 <エントリーシート> 標語の作り方を学ぶ。ブレンライティング法を学ぶ。
- 15 <随筆> を書く

授業の方法

演習が中心の授業となる。コンピューター教室で、情報を検索しながら文章を作り、それを推敲していく。新聞投稿などとおして、書き上げた文章は発表していく。社会の一員としての自分の位置を理解していく。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

毎回課題を与え、その提出を求める。提出物は教員が評価し、次週にフィードバックする。平常点70%、定期試験に変わるレポート30%

欠席について

課題の提出は、授業当日が原則となるため、欠席するとその点数がすべて減点される。

テキスト

必要に応じて授業中に随時紹介する。

参考図書

必要に応じて授業中に随時紹介する。

留意事項

演習が中心の授業となる。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育における I C T活用			13859	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
山本 直子	選択	1				

授業の到達目標

教育におけるICTの活用について現状を知り、理解を深める。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

初等中等教育におけるICT活用のねらいを理解し、その方法について具体例を通して知る。

授業計画

- 1 学習指導におけるICT活用の考え方
- 2 ICTを活用した学習指導について
- 3 ICT機器について
- 4 興味関心を高めるICT活用の具体的な方法や場面
- 5 一人一人の能力を引き出すICT活用の具体的な方法や場面
- 6 思考や理解を深めるICT活用の具体的な方法や場面
- 7 学習準備と評価に関するICTの活用
- 8 まとめ プログラミング教育

授業の方法

講義とグループディスカッションを中心に行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①講義の中で、キーワード等をもとに振り返りを行う
- ②評価については、平常点50％、定期試験50％

欠席について

学内の規定に準ずる。

テキスト

必要に応じて資料提供する

参考図書

必要に応じて紹介する

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育経営論（中高）			13853	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
堀 正人	選択	2	阪神淡路大震災学校避難所支援 神戸市教育委員会指導主事 公開異人館副館長 文科省海外派遣教員			

授業の到達目標

社会の状況の変化が学校教育にもたらす影響とそこから生じる課題、それに対応する教育施策の動向を理解する。また、公教育が果たしている社会制度的な意義について考察し、学校教育の基本的な知識を身に付ける。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

公教育の意義、原理、構造について法的な仕組みや基礎的な知識を学ぶ。さらに、学校と地域との連携の取り組みかの中から学校安全の在り方や危機管理について考察する。

授業計画

- 1 学校教育と公教育について
- 2 教育行政の仕組みについて
- 3 教育改革の歴史概要
- 4 学校教育における法制度について
- 5 学校の組織と運営について
- 6 学校における教員の在り方について
- 7 学校経営と教師力
- 8 学校と地域の連携について
- 9 学校教育の評価について
- 10 変容する子どもの生活と教育的な課題
- 11 安全教育・安全管理の取り組み
- 12 保護者対応から連携について
- 13 災害時に学校が果たす役割について
- 14 学校における危機管理のあり方
- 15 開かれた学校づくりについて・まとめテスト

授業の方法

最初に配布したレジメを中心に授業を進める。
レポートを書くこと、グループディスカッション等を多く取り入れる。

準備学修

Webで世界各国の教育制度や教育の現状、教育法等について事前に

調べる。

課題・評価方法、その他

平常点70％、定期試験30％

欠席について

やむを得ず欠席する場合は事前事後に届け出ること。

テキスト

なし

参考図書

必要に応じて、随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度、レポートを重視する。
授業中に配布したレジメ等の資料を整理しファイリングしておくこと

専門基礎科目〈専門基礎科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
発達心理学			17201	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	必修	2	臨床心理士、公認心理師、学校心理士 SV、公立小教員			

授業の到達目標

人間の心身の発達と行動を、完成されたものとして丹念に記述するだけでなく、それが現状に至る経緯を跡付けるとともに、現在も変化あるものとして捉え、その形成を実践の中で支援することができる視点を育成する。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）、I（知性）、E（倫理）を養う。

授業の概要

人間の心身は、他者を含む環境との相互的関わりを通して発達していくことを、代表的な発達・学習理論を通じて紹介していく。また、精神活動の成立と展開にとつての初期経験の重要性、生涯発達という視点の大切さに触れながら、特に乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達等についての具体的な保育・教育実践の課題を考察する

授業計画

- 1 精神機能を発生的に把握するということ 生物としての発生
- 2 精神機能を発生的に把握するということ 遺伝と環境
- 3 発達段階論とPiagetの発達理論の成立
- 4 知的精神機能の発達:感覚運動期1（新生児期）
- 5 知的精神機能の発達:感覚運動期2（乳幼児期）・運動の発達
- 6 知的精神機能の発達:前操作期1（幼児期）・言語の発達
- 7 知的精神機能の発達:前操作期2（幼児期） ・認知の発達
- 8 知的精神機能の発達:具体的操作期(学童期)・動機づけ・集団づくり
- 9 知的精神機能の発達:形式的操作期(学童期・青年期以降) 学習活動の在り方
- 10 初期経験と発達:野生児の例から
- 11 対人関係と発達:愛着、社会性、遊びの発達
- 12 対人関係の発達:コミュニケーション能力の発達
- 13 発達研究における生態学的視点
- 14 発達における障害の位置づけと診断・療育
- 15 人格としての生涯発達およびまとめ

授業の方法

講義と単元内容に相応した発達に関連する課題に毎時間回答しながら

ら学習を進める。

準備学修

講義は各回が前回を前提として進められるので、毎回の講義内容をよく復習して授業に臨むようにしてください。

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

学内規則に準ずる

テキスト

必要な場合授業時に指示する

参考図書

佐藤眞子編 『人間関係の発達心理学 2 乳幼児期の人間関係』 培風館
川島一夫、渡辺弥生編著 『図で理解する発達―新しい発達心理学への招待―』 福村出版 2010

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門基礎科目〈専門基礎科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもと絵本			17206	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
山本 直子	必修	2				

授業の到達目標

子どもと絵本の関わりについて、文学史に触れたり経験を想起したりする中で、効果的な絵本との出会い等について、知識を養い実践力を磨く。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。

授業の概要

自身の体験を振り返ったり、刊行物を調べたりしながら絵本について考察していく。「この本を子どもたちに会わせたい」という強い思いをもち指導の方法を探っていく。

授業計画

- 1 オリエンテーション、自身と絵本の出会い
- 2 思い出に残る絵本、絵本から得たこと
- 3 2.3歳の幼児に出会わせたい絵本
- 4 5.6歳の子どもに出会わせたい絵本
- 5 科学、知識に関する絵本
- 6 教科書に出てくる絵本
- 7 ビブリオバトル(絵本編)
- 8 視点の変化で、解釈に差異がある絵本
- 9 保育・教育における絵本の役割
- 10 変化にとんだ絵本の世界
- 11 絵本の提示についての手法
- 12 絵本の提示方法(実践発表1)
- 13 絵本の提示方法(実践発表2)
- 14 絵本の提示方法(実践発表3)
- 15 まとめ

授業の方法

講義とグループディスカッションや発表を多く取り入れる

準備学修

WEBで参照すること

課題・評価方法、その他

- ①ディスカッションや発表については、その場でフィードバックを行う
- ②平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内の規定に準ずる

テキスト

必要に応じて、資料提供を行う

参考図書

必要に応じて紹介する

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・表現（音楽表現）			17655	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
南 夏世	選択	1				

授業の到達目標

子どもたちの表現する喜びや意欲を育てることができる指導者を目指し、子どもの発達や現代の環境等を踏まえて様々な音楽表現活動が展開できるよう教材を研究し、演習する。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

- 領域「表現」の目標・内容を学び、活動内容や保育者としての配慮を理解する。
- 音楽の基本となるリズムについて学習し、手拍子やリズム合奏および身体表現活動などの演習を通して、リズムの意義や活動を理解する。
- 日々の活動に必要な歌唱教材を研究し、子どもの成長に合わせた活動内容や指導方法を修得する。

授業計画

- 領域「表現」について・子どもの成長と音楽的発達
- リズム・リズム遊び
- 器楽合奏
- 器楽合奏
- 子どもの歌について（わらべうたと童謡）
- 子どもの歌の教材研究と指導法
- 指導案作成と実践
- 授業の振り返りとまとめ
-
-
-
-
-
-
-

授業の方法

講義内容に則り、演習・発表を行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- 授業の課題ごとの発表や演奏に対し、フィードバックを行う。
- 平常点70%、定期試験30%

欠席について

授業毎の発表や演習が評価対象になるので、できるだけ欠席しないこと。

テキスト

「あそびうた大全集200」細田淳子著 永岡書店発行

参考図書

授業時に指示する。

留意事項

爪は必ず切ること。動きやすい服装で受講すること。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育方法論	教職幼小		17658	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
山本 直子	選択	1	公立小教員、教育委員会			

授業の到達目標

激変する社会に対応できる子どもたちの育成に必要な資質や能力を高めるために、教育技術について理解を深めるとともに情報機器や教材作りへの関心を高める。また、アクティブラーニングの意味を理解するとともに、参加体験・ディスカッションを通して使える技術を習得する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）I（知性）の育成をめざす。

授業の概要

教育方法の概要、教育方法学の歴史、日本の授業と授業研究、教室の日常会話から学ぶこと、コンピューターと教育。などを軸として『学び』について深く考える。さらに、激変する社会に対応できる教育の方法や技術について学ぶとともにそれを生かした情報機器の活用能力を高める。今日の教育課題にも対応できるように、新学習指導要領からキーワードを解説する。

授業計画

- 教育方法と授業について基礎的な理論を理解する。
- 個々の考え、意見を授業で分かち合い高めあう授業の創造。
- 自分の考えと他者の意見を議論しながら、主体的・対話的な深い学びについて体験する。
- 系統的な学び、単元を貫いた授業づくりのための教材選定、教室環境を理解する。
- 育みたい資質・能力を育む教材研究と授業のありかたを理解する。
- 聞き手によくわかる話し方（話法）について基礎的な技術を身につける。
- めあてを共有できるような板書の工夫を考える力を育てる。
- 学習指導案での子どもの実態を把握する技術を理解する。

授業の方法

講義、発表とワークショップ

準備学修

参考図書からレポートを指示することがある

課題・評価方法、その他

- グループディスカッションについて担当教員よりフィードバックを行う
- 平常点50%、定期試験50%

欠席について

学内の規定に準ずる

テキスト

適宜紹介する

参考図書

必要に応じて指示する

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育における I C T 活用			17659	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
山本 直子	選択	1				

授業の到達目標

教育におけるICTの活用について現状を知り、理解を深める。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

初等中等教育におけるICT活用のねらいを理解し、その方法について具体例を通して知る。

授業計画

- 1 学習指導におけるICT活用の考え方
- 2 ICTを活用した学習指導について
- 3 ICT機器について
- 4 興味関心を高めるICT活用の具体的な方法や場面
- 5 一人一人の能力を引き出すICT活用の具体的な方法や場面
- 6 思考や理解を深めるICT活用の具体的な方法や場面
- 7 学習準備と評価に関するICTの活用
- 8 まとめ プログラミング教育

授業の方法

講義とグループディスカッションを中心に行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①講義の中で、キーワード等をもとに振り返りを行う。
- ②評価については、平常点50%、定期試験50%。

欠席について

学内の規定に準ずる

テキスト

必要に応じて資料提供する

参考図書

必要に応じて紹介する

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等国語科指導法			17661	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
山本 直子	選択	2	公立小学校教員			

授業の到達目標

小学校「国語科」の教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

国語科の目標と内容、授業方法、授業の構造、指導計画等、小学校における国語科学習指導法を把握するための講義を行う。また、教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解したうえで、教科書教材の指導案の作成や模擬授業を通して、国語科の指導力を身に付ける。

授業計画

- 1 受講の心構え・授業規律・授業内容についてのガイダンス、国語と国語科
- 2 国語科教育の意義と役割
- 3 国語科の目標と内容
- 4 学習指導要領に基づいた学習指導計画
- 5 国語科の指導法と評価
- 6 話すこと・聞くことの指導
- 7 書くことの指導
- 8 説明的な文章の指導（情報機器及び教材の活用を含む）
- 9 文学的な文章の指導（情報機器及び教材の活用を含む）
- 10 音読・朗読の指導
- 11 伝統的な言語文化の指導（情報機器及び教材の活用を含む）
- 12 国語の特質に関する指導
- 13 模擬授業（選択学年）
- 14 模擬授業（選択学年）
- 15 デジタル教科書の活用

授業の方法

発表やディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

テキストの指定ページを読んだり、指導案を作成したりしておくこと。詳細については、Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①指導案と模擬授業について、批評とアドバイスを行う。
- ②評価方法は平常点50%、定期試験50%とする。

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

テキスト

吉田武男 監修『初等国語科教育』ミネルヴァ書房
文部科学省『小学校学習指導要領解説 国語編』

参考図書

必要に応じて、随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度（模擬授業の準備やレポート等を含む）を重視する。小学校国語科の指導法を身に付けようとする意欲をもって授業に臨むこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育・教職実践演習（小）			17686	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
山本 直子	選択	2	公立小学校教員			

授業の到達目標

保育・教職課程科目の学修や学校園での現場学習等を通じて、保育士・教員として必要な資質能力が、実践力としてどのように統合されたかを最終的に確認する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

実習で学んだことを振り返り、課題を確認するとともに保育者・教育者としての役割と責務についての認識を深めていく。職務への使命感、社会性や対人関係能力、また、学級経営能力や指導力を高め、保育者・教育者としての資質の向上を目指す授業を進める。

授業計画

- 1 授業概要の説明、受講の心構え、これまでの学修の振り返り
- 2 保育・教職の意義や保育士・教員の役割、職務内容、子どもに対する責任等についての討議
- 3 社会性や対人関係能力(職場、保護者・地域との人間関係の構築等)についての講義・グループ討議
- 4 幼児・児童理解や学級経営についての講義・グループ討議
- 5 保育計画案・学級経営案の作成
- 6 保育計画案・学級経営案の発表とグループ討議
- 7 学校園現場の見学・調査①
- 8 学校園現場の見学・調査②
- 9 社会性、対人関係能力、幼児・児童理解、学級経営についてのグループ討議
- 10 保育・教科の指導力についての講義・グループ討議
- 11 模擬保育・模擬授業と討議①
- 12 模擬保育・模擬授業と討議②
- 13 事例研究とロールプレイング①
- 14 事例研究とロールプレイング②
- 15 目指す教師像と自己課題の確認

授業の方法

発表とディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

事前に課題を提示するので、レポートや作品等を作成すること。具体的な課題については、保育・教職（幼・小）の各担当教員から提示する。

課題・評価方法、その他

- ①レポートや作品等の提出物については、担当教員が指導助言を行う。
②評価方法は平常点70%、定期試験30%とする。

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

テキスト

各担当教員が参考図書の中から指定する。

参考図書

厚生労働省『保育所保育指針解説』、文部科学省『幼稚園教育要領解説』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』フレーベル館、文部科学省『小学校学習指導要領』、わかば社『教職実践演習 これまでの学びと教師への歩み』

留意事項

自己目標・課題をもって意欲的に授業に臨むこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育実習指導（幼稚園）Ⅰ	教職幼		17691	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渡邊 恵梨花	選択	1				

授業の到達目標

幼児期の子どもの教育と幼稚園教諭の職務についての知識を身につける。その上で、教育実習の基本となる観察力や状況把握力を養い、実習での学びを深められるようにする。教育実習に向けて準備すべきことや心構えを学ぶ。実習記録や指導計画の作成をし、実践力を身につける。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とK（思いやり）の育成をめざす。

授業の概要

教育実習に向けての事前指導および実習後の振り返りを行う。1週間の観察・参加実習にあたり、教育実習の目的・意義、特に実習記録のとり方について具体的に学ぶ。また、実習生の心得や遵守すべきことについて理解する。実習後の振り返りでは、子ども理解や幼稚園教諭の職務について理解を深めると共に、自らの課題を明確にし、資質向上をめざす。

授業計画

- 1 幼児教育・幼稚園教諭とは
- 2 教育実習の意義と目的、個人目的の設定
- 3 教育実習園の選択と決定
- 4 教育実習園の教育などの理解
- 5 教員に求められる資質
- 6 週間実習に向け、園への依頼の仕方
- 7 実習記録の取り方と記載について
- 8 実習記録の記載に際しての留意事項
- 9 実習に際しての具体的な留意事項
- 10 実習後について(礼状の作成など)
- 11 1週間実習を終えての成果や課題について協議①
- 12 1週間実習を終えての成果や課題について協議・発表②
- 13 実習記録について個人指導及び指導①
- 14 実習記録について個人指導及び指導②
- 15 実習記録について個人指導及び指導と3週間実習に向けての準備

授業の方法

テキストやプリントをもとに、具体的な内容で授業を進める。実習後は、実習園から返却された実習記録や評価をもとに、自らの成果

と課題を明確にする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①課題の提出を求め、授業内で評価と助言を行う。
②平常点70%、定期試験30%で評価する。

欠席について

基本的に欠席は認められない。必ず全回出席すること。やむを得ず欠席する時は必ず事前に申し出ること。その場合のみ1回につき3点の減点とする。

テキスト

本学作成の「幼稚園教育実習の手引き」
「あそびうた大全集200」永岡書店

参考図書

「保育とカリキュラム」ひかりのくに社
幼稚園教育指導資料「幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開」チャイルド社

留意事項

免許取得のための教育実習に向けた授業であることを十分心得ておくこと。
授業内で取り組む内容には、実習園へ提出する書類作成等も含まれる。そのため、提出期限を厳守すること。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育経営論	教職幼小PC		17713	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
山本 直子	選択	2	臨床心理士、学校心理士SV、公立小教員			

授業の到達目標

教育制度について、法的な知識をふまえながら、その概要を把握し、経営という観点から、学校を総合的・多面的に理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。

授業の概要

現在の教育システムの在り方をとらえ、学校・学級経営の様々な場面に応じて、組織を有効に活用する教育経営論を学ぶ。教育について、制度及び経営という側面から考察していく。また、学校制度や教育関係法規から、学校教育の目的や教職員の職務等を学び、教師の職責について理解を深める。

授業計画

- 1 受講の心構え・授業規律・授業内容等についてのガイダンス、学校の種類と公教育
- 2 教育制度の歴史と発展 1
- 3 教育制度の歴史と発展 2
- 4 子どもの権利と人権 1
- 5 子どもの権利と人権 2
- 6 教育制度を学ぶ意義 1
- 7 教育制度を学ぶ意義 1
- 8 教育法 1
- 9 教育法 2
- 10 教育の目的と目標
- 11 学校の制度
- 12 義務教育の制度
- 13 教育の機会均等
- 14 教職員の制度
- 15 まとめ

授業の方法

考えを書く活動とグループディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

世界各国の教育制度や教育の現状、教育法等について事前に調べた

り、レポートを作成したりすること。授業時間の2倍程度の時間を準備学修（予習・復習）に費やすこと。

課題・評価方法、その他

キーワードに関するレポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。
平常点50%、定期試験50%

欠席について

出席については、大学が認める欠席以外考慮しない

テキスト

本図愛実・末富芳編著「新・教育の制度と経営」学事出版

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

出席と授業態度を重視する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・健康			17717	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
竹安 知枝	選択	2				

授業の到達目標

・保育内容の領域「健康」について、他の領域とも関連させながら、説明ができる。・保育者として必要とされる知識や技能（乳幼児が生活習慣を獲得していくための、子どもとの関り方や援助の方法など）を身に付ける。・小学校の教科等とのつながりも意識した保育が実践できるように、それらのための資質と能力を身に付ける。
このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）I（知性）を養うことを目指す。

授業の概要

乳幼児期の発達（認識・思考や運動発達・生理的発達等）について学習し、この時期の基本的な生活習慣の獲得（食事・睡眠・運動）について、ディスカッションを行い、具体的に考えていく。また、子どもを取り巻く、現在における問題点について焦点をあて、その改善策について多面的に考えながら、保育者としての役割について様々な観点から考察し、発表を行う。そして、指導案の作成や模擬保育を通して、様々な指導場面を想定した保育実践ができるよう、授業を展開していく。

授業計画

- 1 保育内容の領域について
- 2 領域「健康」の全体構造
- 3 乳幼児期の発達 0～3歳児
- 4 幼児期の発達 4～6歳児
- 5 乳幼児期の食事（栄養）と睡眠
- 6 乳幼児期の運動（遊び）0～3歳児
- 7 幼児期の運動（遊び）4～6歳児
- 8 日常生活物を使用した遊びと自然遊び
- 9 基本的な生活習慣の獲得（食事・睡眠・運動）・教材の研究（重要な視点）と情報機器の操作方法
- 10 ケガ・病気の予防と感染症
- 11 指導案の作成（1）（書き方の基本）
- 12 指導案の作成（2）（テーマごとの作成）
- 13 模擬保育（1）（実践・振り返り）
- 14 模擬保育（2）（振り返り・改善における視点）
- 15 安全対策・小学校教科とのつながり・まとめ

授業の方法

講義を中心とする。ディスカッションと発表を多く取り入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①課題や発表に対するフィードバック
グループ発表や提出物に関して、全体へのフィードバックを行う。
- ②評価方法
提出物（レポート）50％発表20％学習意欲・授業態度30％

欠席について

大学の規定に従う。（欠席回数が規定を超える場合は、評価の対象外となる）

テキスト

幼稚園教育要領（平成29年3月）文部科学省

参考図書

授業内で紹介する。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等体育科指導法			17745	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
山本 正実	選択	2	公立小学校教員			

授業の到達目標

体育科の学習指導案を作成し、体育科の模擬授業を行う力を養う。併せて、授業観察力を培う。グループワークを主として行い、KAISEI/パーソナリティのA（自律）とI（知性）、S（奉仕）の育成を目指す。

授業の概要

小学校体育科の目標、指導計画、学習指導法、教材内容の扱い方等を把握する。理解した知識を基に学習指導計画を立て、模擬授業を実施する。また、授業を観察するポイントを理解する。

授業計画

- オリエンテーション。先生を目指すということ。目指す体育授業①
- 小学校学習指導要領、体育編の内容を知る。目指す体育授業②
- 目指す体育授業③。運動の特性について
- 低学年の目標と学習内容について
- 中学年の目標と学習内容について
- 高学年の目標と学習内容について
- 学習指導案の書き方について
- 指導案を作成する。〈外1〉
- 指導案を作成する。〈外2〉
- 指導案を作成する。〈外3〉
- 模擬授業を実施する。〈外1〉
- 模擬授業を実施する。〈外2〉
- 模擬授業を実施する。〈外3〉
- 模擬授業を振り返る。学習評価について。
- 学習のまとめ。これからの体育学習について

授業の方法

少人数グループでの話し合い、調べ学習、作業等を主とする。模擬授業に伴う体育の実技も実施予定である。

準備学修

文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）
文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編等

を読み、学習指導計画案等を事前に調べ、予習・復習等60時間を費やすこと。

課題・評価方法、その他

- ①学習指導計画案と模擬授業について、評価とアドバイスをを行う。
②評価方法は平常点30点、学習指導計画案40点、模擬授業30点とする。

欠席について

原則欠席をしない事。登校できる程度なら見学でも出席すること。

テキスト

使用しない。

参考図書

文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編」平成23年版、令和2年度版神戸市小学校体育指導の手引き

留意事項

実技も実施するので、運動のできる服装の用意をする。
可能であれば、学外にて、体育授業の参観を行う。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
道徳教育指導論	教職小		17749	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
山本 直子	選択	2	公立小学校教員			

授業の到達目標

小学校「特別の教科 道徳」の目標と内容、指導計画、学習指導法等について、基礎的な理論と指導技術を修得する。このクラスではKAISEI/パーソナリティのA（自律）とE（倫理）の育成を目指す。

授業の概要

道徳教育の目標と内容、授業方法、指導計画、資料の扱い方等、小学校における道徳の指導法を把握するための講義と演習を行う。また、学習指導案作成や模擬授業を通して、実践的な指導力を身に付ける。

授業計画

- 受講の心構え・授業内容についてのガイダンス、道徳教育の基礎理論
- 道徳教育の歴史
- 道徳性とは何か
- 道徳の目標と内容
- 道徳性の発達理論と道徳教育
- 道徳教育の計画
- 道徳科の学習指導
- 道徳教材の活用
- 道徳科における問題解決的な学習
- 道徳科における体験的な学習
- 道徳科の授業展開
- 道徳の評価
- 模擬授業(低学年)
- 模擬授業(高学年)
- これからの道徳教育の課題

授業の方法

発表とディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①指導案と模擬授業について、批評とアドバイスをを行う。
②授業への参加度50%、定期試験50%とする。

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度（模擬授業の準備や提出物を含む）を重視する。道徳の指導法を身に付けようとする意欲をもって授業に臨むこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
生徒指導論（進路指導を含む）	教職小		17753	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
山本 直子	選択	2	公立小中学校教員			

授業の到達目標

小学校における生徒指導体制や指導方法、課題等を理解し、人権尊重の精神を根幹に据えた生徒指導と自己実現を目指す進路指導のあり方を学び、自己指導能力を育む教員としての実践力を身に付けることが到達目標である。このクラスでは、KAISEIパーソナリティーのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

今日的な生徒指導・進路指導の課題を学校現場の情報や新聞等の資料より把握し、『生徒指導提要』等に基づき児童の内面理解を基盤に据えた生徒指導・進路指導のあり方を考察する。

授業計画

- 1 生徒指導の意義と目的
- 2 教育課程と生徒指導
- 3 学校組織としての生徒指導
- 4 進路指導・キャリア教育と生徒指導
- 5 児童生徒理解を図る方法とその活用
- 6 学級担任としての生徒指導
- 7 集団指導と個別指導
- 8 教育相談の進め方
- 9 基本的生活習慣の確立(学校・家庭・地域の役割)
- 10 学校と家庭・地域・関係機関の連携
- 11 生徒指導に関する法制度
- 12 問題行動の未然防止と早期発見
- 13 いじめと不登校
- 14 情報教育と生徒指導
- 15 まとめ

授業の方法

講義とディスカッション

準備学修

webで参照すること

課題・評価方法、その他

①重要なキーワードについての各自の認識を講義の中でフィードバックする。

②平常点50%定期試験50%

欠席について

欠席1回につき3点減点、遅刻1回につき1点減点

テキスト

文部科学省『生徒指導提要』

参考図書

適宜紹介する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
社会的養護Ⅱ			17640	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
曾田 里美	選択	1	児童養護施設職員			

授業の到達目標

現代の子どもたちを取り巻く環境は大きく変化し、それに伴い家庭での養育機能は脆弱化している。家庭養育だけでは子どもの養育は困難な状況となり、国や社会で子どもたちを養育・保護する「社会的養護」が重要となる。地域社会をも含めた施設養護および家庭養護の本質と機能を理解し、援助技術について実践的活動事例を通して学びを深める。このクラスではKAISEIパーソナリティのS（奉仕）を養う。

授業の概要

児童福祉施設に入所・利用している子どもたちの背景には多様で複雑な状況がある。それらの子どもたちの心身の成長や発達を保障し援助するための具体的な知識・技能を習得する。また、里親家庭で暮らす子どもについてその現状、施設養護との違いを理解する。さらに、社会福祉専門職として、これらの児童に対する社会的支援の必要性についても理解する。

授業計画

- 1 オリエンテーション 社会的養護Ⅱを学ぶにあたって
- 2 社会的養護の基礎理解
- 3 社会的養護における支援内容
- 4 社会的養護の実践①(養護系施設)
- 5 社会的養護の実践②(家庭養護)
- 6 社会的養護の実践③(障害系施設)
- 7 社会的養護のこれから
- 8 まとめ

授業の方法

講義とディスカッションを中心とする。双方向の授業のため積極的な参加を求める。

準備学修

日ごろから新聞、ニュース等で子どもを取り巻く問題に関心を深めておくこと。

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

公欠以外の欠席は原則認めない。欠席は成績評価において減点する。

テキスト

必要に応じて資料を配布する。